

## 建築大工技能科

### 卒業認定の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

#### ■ 育成人材像

- ① 木材を様々な用途に合わせて加工する技術を身に付け、木造建築の現場での大工技能作業ができるようになる。
- ② 異なる構造形式を見分ける知識を身に付け、リフォームの現場でより良い工法を選び工事ができるようになる。
- ③ 関連職種の作業内容を理解することで、建築工事現場での工事全体の進捗状況がわかるようになる。
- ④ 設計図書を正しく読み取る知識を身に付け、設計者の意図を理解し、現場施工が円滑にできるようになる。
- ⑤ 上記の事項を理解することで建築現場での施工のみならず、図面の作成や現場で設計通りに工事が進んでいるかどうかの監督業務ができるようになる。

#### ■ 身に付ける能力

- ① 大工作業の基本である差し金を使いこなす「規矩術」を身に付けることで、刻み作業（手刻み）に対応できる。
- ② 新築工事、改修工事を問わず、様々な条件に対応できる「大工技能」を身に付けることで、建物用途、使用目的に合った工事に対応できる。
- ③ 流通している建築材料（資材）の長所・短所を理解し正しい使用法を身に付けることで、丈夫で長持ちする建物を送り出すことができる。
- ④ 建築に関する法規を理解することで、違法建築物の施工を防ぐことができる。
- ⑤ 木造に限らず、鉄骨造、鉄筋コンクリート造など、構造種別ごとに正しい知識を身に付け、幅広い業務に携わることができる。
- ⑥ 建築に関する様々な知識を身に付けることで、建築現場にて求められている、各種免許、技能講習、建築大工技能士等の資格取得に対応することができる。

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

#### ■ 教育課程編成の方針

- ① 豊かな教養と社会常識、建築業界就職に必要な知識を身に付けるために、「就職対策」を各年次に配置する。
- ② 1年次は、建築大工業界における基礎的知識（規矩術）、電動工具の基本的操作技術、建築士試験に必要な製図力、建築工学を身に付けるための専門科目を配置する。
- ③ 2年次は、建築大工業界で即戦力として活躍できる実践力を身に付けるための専門科目として、1年次に身に付けた、基礎的知識、工具の操作法の応用力を身に付けるための専門科目を配置する。
- ④ 2年次は、業界内における利用率が高いCADソフトを使いこなし、プレゼンテーション力を高める技術を身に付けるための専門科目を配置する。
- ⑤ 1・2年次通年で企業と連携した実習科目を配置する。

## ■ 授業実施の方針

- ① キャリア教育科目である「就職対策」はオンラインコンテンツを利用した一般常識の学修、履歴書・エントリーシートの記述指導、面接訓練等の実践トレーニング、業界企業研究とする。
- ② 建築工学分野における知識修得を目的とした科目は講義形式で行うことを基本とし、知識の定着のための演習はグループワーク形式で行う。
- ③ 建築大工技能を身に付けるための専門科目は、実習形式で行う。年間1棟の模擬家屋を建築し、建築大工業界で即戦力として活躍できる実践力を身に付ける。
- ④ 実践力を身に付けるために実施する企業と連携した実習授業は、1・2年を通じて規矩術、大工技能、施工管理等の作業を実務レベルに近い状況で実施する。

## ■ 修成果評価の方針

- ① 講義科目は、定期試験、小テスト、レポート、授業に取り組む姿勢をもとに総合的に評価する。各科目の評価方法はシラバスに記載する。
- ② 実習科目は、課題の提出状況、作品の完成度、授業に取り組む姿勢をもとに総合的に評価する。各科目の評価方法はシラバスに記載する。